

今年は春 3 番も吹いたそうです。日ごとに変化する寒暖の差が身体にこたえます。何卒体調を崩さぬようお過ごしいただきたいと思えます。

先日、お世話になっている会計士さんに用があり訪ねたところ最初の挨拶の後意外なことから話をはじめられました。「最近自分の身の周りでなぜか悪いことが続いているため気分転換も兼ねて西新井大師で御札をいただいてきました。」そしてお寺の様子をはなしてください、すこし間をあけて私に軽く質問されました。「そういえば浄土真宗のお寺ではお守りや御札を配っているといった話をあまり聞きませんねえ。」その時はじっくりお話しする時間もなかったのですが、そのように尋ねられた以上何かお答えしなければと思い「親鸞聖人が真実・仮・邪とはっきり区別されているため真実以外のものを勧めることは教えに反することになります。」と少しご説明しましたが私の説明不足もあってかどうも理解に苦しんでいるご様子でした。

私自身今だからこそ浄土真宗にお守り・御札などが

ないことを当然のように思えますが、改めてそのような質問を受けますとそこところはもう少し解りやすく整理しておくことが必要なのではないかと考えました。そこで、一般にお守り・御札をおもとめになる場合に何がキーワードとなるかと考えると「御利益」ということばが思い浮かびます。お守りや御札に込められた不思議な力が幸運をもたらしたり、災難をとり除いてくれるのでは・・・そして実際よい結果がでた場合「御利益があった!」と喜ぶのではないかと思います。その御利益を獲たいがためあらゆる神社・仏閣に足を運ばれるのでしょうか。

さて、浄土真宗にも御利益はあります。しかし、この御利益の考え方が他とは違い特別なので、お守り・御札を配らないといつてよいと思います。

先に答えからいいますと、浄土真宗のご利益は、「南無阿弥陀仏」です・・・

と申したときなにか全然答えになっていないように思われる方も多いのではないかと思います。「南無阿弥陀仏」は御守り・御札と違い物ではないため掴みどころ

がございません。しかしその掴みどころのない言葉の意味にとんでもない御利益が込められております。「南無阿弥陀仏」とは親鸞聖人のみ教えでは「つかまなくていいよ。」という意味があります。

私たちがあらゆる苦しみ悲しみを抱えているのは、実は自分自身の煩悩をどのようなものか知らず逆にそのところに必死になってしがみつこうとするところからおこるのだよと、仏様方は教えてください。しかし浄土真宗の阿弥陀如来という仏様は「つかまなくていいよ、私がいつもいっしょだから」というお慈悲のこの上ない「御利益」とどけてくださいました。この御益をいただくという事はいつでもどこでも阿弥陀様と一緒に人生を歩ませていただくことであり、さらに、もうこれ以上ない極楽浄土に生れ往く人生に恵まれているということですので、必然的にその他の御利益は必要なくなるということでもあります。自分が良いと思おうがダメと思おうが、まったく関係ない他力の救いとはそのことです。

南無阿弥陀仏